

農作物技術情報 第3号 水稻

発行日 令和6年 5月30日
 発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
 編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
 パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆ 活着後、好天時は浅水管理で地温を高め、分けつの発生を促しましょう。
- ◆ 中干しは、6月下旬（6月21～25日頃）を目安に開始し、溝切りを実施しましょう。
- ◆ 除草剤は、適期を逃さず散布しましょう。
- ◆ 取置苗はいもち病の伝染源になるので、直ちに処分しましょう。
- ◆ 斑点米カメムシ類のふ化盛期に合わせ、地域一斉に草刈を実施しましょう。

1 田植えの進捗状況

- (1) 県内の田植え盛期（50%終了）は、平年より1日早い5月16日頃となりました（表1）。
- (2) 4月中旬から5月中旬にかけて気温が高く推移したことから、草丈は平年よりも長く、やや徒長気味の苗となり、充実度がやや低い苗もみられました（表2）。
- (3) 一時的な低温もありましたが、5月は好天が続き、活着は平年並みに良好となっています。

表1 県内農業地帯別田植状況（各農業改良普及センター調べ：5/27現在速報）

地帯名	本年			平年			平年差		
	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期
北上川上流	5/14	5/19	(5/25)	5/15	5/20	5/26	-1	-1	(-1)
北上川下流	5/9	5/14	(5/22)	5/9	5/15	5/22	0	-1	(0)
東 部	5/9	5/15	(5/22)	5/11	5/16	5/23	-2	-1	(-1)
北 部	5/17	5/22	(5/27)	5/19	5/23	5/28	-2	-1	(-1)
県 全 体	5/11	5/16	(5/23)	5/11	5/17	5/23	0	-1	(0)

- 1) 平年値は平成25年～令和5年の平均。始期：進捗10%、盛期：50%、終期：90%
- 2) 括弧内の数値は、現時点において未確定市町村が含まれるため推定値
- 3) 県全体の数字は、各地帯の作付面積比による加重平均

表2 苗の生育状況（農業改良普及センター生育診断予察圃）

地帯名	草丈			葉令			第1葉鞘長			100個体風乾重/草丈		
	本年 (cm)	平年 (cm)	平年差 (cm)	本年 (葉)	平年 (葉)	平年差 (葉)	本年 (cm)	平年 (cm)	平年差 (cm)	本年 (g/cm)	平年 (g/cm)	平年比 (%)
北上川上流	16.9	16.2	0.7	3.0	2.9	0.1	4.1	4.0	0.1	1.32	1.31	101
北上川下流	17.7	14.8	2.9	3.1	2.9	0.2	3.7	3.8	-0.1	1.29	1.36	95
東 部	18.3	15.3	3.0	3.2	2.6	0.6	4.0	4.0	0.0	1.43	1.31	109
北 部	16.4	16.4	0.0	3.0	3.3	-0.3	3.9	3.3	0.6	1.37	1.57	87
県 全 体	17.5	15.2	2.3	3.1	2.9	0.2	3.8	3.8	0.0	1.31	1.36	96

- 1) 平年値は原則、令和元年～令和5年の平均
- 2) 表中の数値は端数処理を実施
- 3) 県全体の数字は、各地帯の作付面積比による加重平均

2 活着後の水管理

(1) 分けつ促進のため、2～3cmの浅水管理を基本とします（図1）

- ・ 気温が15℃以下の低温時は、葉先が出る程度の深水管理とします。なお、低温でも日照があり、風のない日は、日中は浅水にして水温・地温の確保に努めてください。
- ・ 昼間は止水、朝夕の短時間かんがいで水温・地温を高め、初期生育を確保します。

(2) 稲を健全に保つため、以下の場合には水を入れ替えてください。

- ・ 藻類や表層剥離が多発する水田
 - アミミドロ：窒素・リン酸多、水温22～25℃
 - アオミドロ：リン酸多、低温・曇雨天、水温18～23℃、pH8.5～9
 - 表層剥離：リン酸多、水温25℃付近、pH6～7
- ・ 水持ちが良すぎる場合（7日間以上入水不要）
- ・ 春先に稲わらや堆肥を多投したときなど、早期にガスが発生する水田（表2）

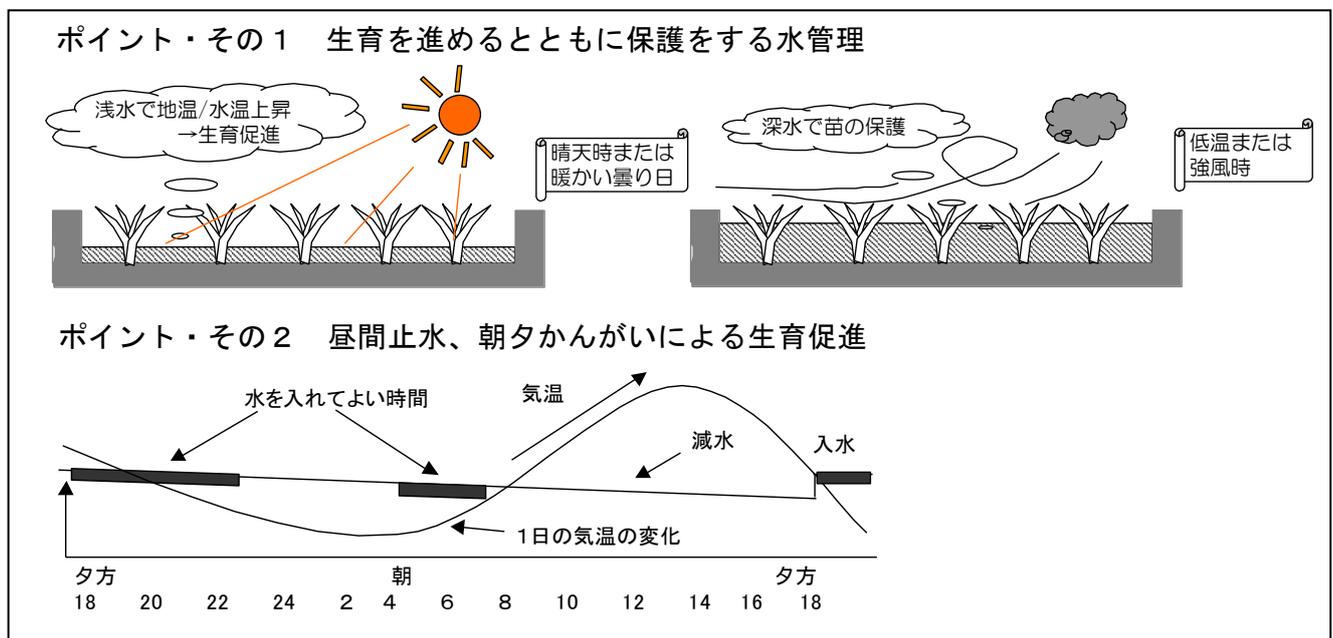


図1 田植え後の水管理のポイント

表2 水田でのガス発生時の対策

特徴	生育への影響	対策	
		分けつ初期 (6月上旬頃)	分けつ盛期 (6月中旬頃)
水田に足を踏み入れても気泡が発生しない	なし	—	—
水田に足を踏み込んだときに、多量の気泡が発生する	根の活力低下	水の入替え	水の入替え
晴れた日に自然に気泡を発生し、パチパチ音がきこえる。歩くと著しい量の気泡が発生する(水田から離れてもドブ臭がする)	根の伸長阻害 地上部黄化	夜間落水	間断灌漑 夜間落水

3 中干し

(1) 開始時期の目安・・・茎数が目標穂数の8～9割となる時期（平年6月25日頃）

- ・ 中干しを適切に実施することで、余剰分げつ・節間伸長の抑制や根の健全化、機械収穫に必要な地耐力の確保のほか、温室効果ガス（メタン）の抑制にもつながります。
- ・ 県内の主要うるち品種（ひとめぼれ、あきたこまち、いわてっこ等）で中干し開始の目安となる茎数は、概ね360～450本/m²程度（坪60株の場合、株あたり20～25本）です。
- ・ 7月に入ってからの中干しは、梅雨で田面が乾きにくい場合が多いため、6月中に開始できるよう、初期生育の確保に努めてください。

(2) 中干しの程度

- ・ 中干しの効果を高めるため、溝切りをおこないます（図2）。
- ・ 細かい亀裂が生じ、軽く踏んで足跡が付く程度まで乾かします（図3）。
- ・ 十分乾いたら「1日湛水→2日落水」⇒「2日湛水→1日落水」と落水間隔を徐々に短くし、幼穂形成期頃には湛水管理とします。
- ・ 根腐れ防止のため、中干し後の急な湛水はさけてください。



図2 溝切り



図3 中干し程度（軽く踏んで足跡がつく）

4 除草剤の散布

(1) 除草剤の散布時期

雑草の種類や葉齢を良く確認し、散布適期内の早い時期に散布します。なお、除草剤ラベルに記載された散布上限のノビエ葉齢（例：～ノビエ2.5葉まで）は、平均葉齢でなく「最大葉齢」です。近年はノビエの葉令の進展が早い傾向がありますので、適期を逸しないように散布してください（図4、図5）。

(2) 散布後の水管理

十分な湛水深を確保してから除草剤を処理します。散布後3～4日間は水を動かさず、7日間は落水・かけ流しをしない管理としてください（この間、田面を露出させないこと）。

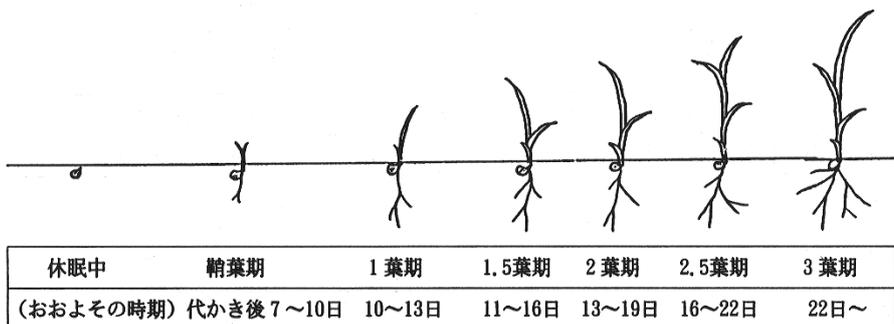


図4 ノビエ葉齢の進展



図5 ノビエ2葉期頃の個体

5 病虫害防除

(1) 葉いもち・・・補植用取置苗の早期処分

ア 水田内や畦畔際に放置された取置苗は、いもち病の伝染源になる恐れがありますので、直ちに処分してください。取置苗をよく観察し、葉いもち病の発生を確認したときは（図6）、水田内での葉いもちの発生状況を観察します。

イ 移植時にいもち病予防箱粒剤を施用しなかった場合、葉いもち予防の水面施用粒剤を6月20日頃に施用し、中干し開始の1週間前までに散布を終えてください。なお、例年、葉いもちが早期に発生する地域ではこれより7日程度早めに施用してください。

ウ 葉いもち予防水面施用粒剤を施用する前や箱施用剤を使用した場合でも、圃場をよく観察して葉いもちの発生が見られた場合には、直ちに茎葉散布を行います。



図6 取置苗での葉いもち発生

(2) 斑点米カメムシ・・・草刈り

- アカスジカスミカメ幼虫のふ化盛期は既に多くの地点で迎えていると考えられます。
- すでにふ化盛期を迎えている地域では、直ちに草刈りを実施してください。

ア 斑点米発生の原因となるアカスジカスミカメは、イタリアンライグラス等のイネ科牧草や雑草の穂などで繁殖します（図7、図8）。

イ アカスジカスミカメは卵で越冬しますが、越冬卵のふ化（卵がかえること）盛期の前後5日間に畦畔等の草刈りを行うと、越冬世代幼虫の密度低減に効果的です。

ウ ふ化盛期の前後5日間に、越冬場所である水田畦畔、牧草地、雑草地、農道等の草刈りを地域一斉に行います。→ふ化盛期を迎えた地域（表3）では直ちに草刈りを実施してください。

エ 草刈り後10日間程度は雑草の出穂を抑制できますが、その後も、イネ科植物（イタリアンライグラス、スズメノカタビラ等）を出穂させないように管理します。



図7 畦畔に群生するイタリアンライグラス
(斑点米カメムシの増殖原となる)



図8 アカスジカスミカメ成虫

表3 アカスジカスミカメ越冬世代幼虫のふ化盛期〔予測〕

(令和6年度農作物病害虫防除速報 No. 5より)

年次	一関	江刺	北上	大船渡	盛岡	二戸	軽米	宮古	松尾	遠野	久慈	湯田
令和6年 ¹⁾	5/7	5/7	5/10	5/13	5/14	5/27	5/28	5/24	5/26	5/30	6/1	6/6
平年 ²⁾	5/23	5/23	5/24	5/26	5/27	5/31	5/31	5/30	5/31	6/4	6/5	6/11
(参考)令和5年 ³⁾	5/22	5/22	5/23	5/23	5/28	6/4	6/2	5/29	6/6	6/5	6/4	6/8

1) 5月9日までは各地点におけるアメダス日平均気温実況値、以降は日平均気温平年値(10年平均)を用いて算出。

2) 直近10年分の隔年の平均気温を使用し算出した予測値の平均値

3) 令和5年の平均気温を使用し算出した予測値

春の農作業安全月間 [4月15日 ~6月15日]

「ひと休み 急がば回れ 農作業 ゆとり忘れず 安全管理」

次号は6月27日(木)発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

熱中症防止

- 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等作業時間の工夫を行うこと。水分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給すること。気温が著しく高くなりやすいハウス等の施設内での作業中については、特に注意。
- 帽子の着用や、汗を発散しやすい服装をすること。作業場所には日よけを設ける等できるだけ日陰で作業するように努めること。
- 暑い環境で体調不良の症状がみられたら、すぐに作業を中断するとともに、涼しい環境へ避難し、水分や塩分を補給すること。意識がない場合や自力で水が飲めない場合、応急処置を行っても良くならない場合は、直ちに病院で手当を受けること。

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。